

渡辺澄夫・中野幡能両氏受賞祝賀会

昭和四十二年十一月三日、文化の日に、本会委員長渡辺澄夫、常任委員中野幡能の両氏は、多年の歴史学研究を通して、学界に、一般社会に多大の貢献をされて来られたのが認められ、それぞれ西日本新聞文化賞、大分合同新聞文化賞を受けられました。これが祝賀会を十一月十八日（土）午後一時から大分駅前（ニュー大分）で開催いたしました。県下各地から約五〇名の出席者があり、両氏の輝やかしい研究業績をたたえ、さらに一層の御発展を祈る旨のテーブルスピーチが多数あり、記念品を贈呈、盛会裡に午後四時閉会しました。

実地見学研修旅行

昭和四十二年度実地見学研修旅行を、大分市白菊会・大分探勝アルコウ会と共催で、次の通り実施しました。

○高千穂 昭和四十二年十一月二十三日（祭日）

紅葉の好季で、二一七名もの方々の参加を得て、盛会でした。北村清士・立川輝信両氏ほかの案内で、午前八時大分バス本社出発、竹田經由、高千穂町に入り、高千穂峡・国見台・岩戸神社などの、日本民

族発祥の聖地をたずね、延岡經由午後八時一同無事帰着しました。○日向における大友・島津の戦跡 昭和四十二年十一月二十六日（日）

五九名参加。午前八時大分バス本社発、国道十号線を南下、高鍋を経て、木城（高城）・カンカン原宗麟供養塔・十文字原・耳川の戦跡を見学、午後九時大分に無事帰着しました。今回は、車中で、渡辺澄夫・立川輝信両氏のほか、多数の会員がそれぞれの研究を発表、また沿線の案内にあたられ、さらに、現地では、安田尚義（宮崎県文化財保護委員）・黒木木城町教育長・兄玉宗（美々津郷土史家）の方々の説明があつて、きわめて有益でした。なお、カンカン原では、この地の開拓に従つて来られた九〇才の老婆が、供養塔に花をたやさず、付近の清掃美化につとめておられる姿に、一同頭がさがりました。先祖をこの地の戦闘に失なわれた田北暢舟氏の説経のうちに、全員が線香をあげて、戦死者の冥福を祈りました。

高崎山旧道城の腰越道標復原

恐らく数十年以上たおれたまま草むらの中に埋れていた高崎山、城の腰旧道（大分・別府間の本通）にあった道標「府内より式里」Ⅱ江戸中期以前Ⅱを大分探勝アルコウ会が十二月十日現地に復原し、大分市に寄附した。